

安土城考古博物館
の指定管理者募集前におけるサウンディング調査実施結果

1 参加事業者数 6者

2 サウンディング調査結果の概要

サウンディング調査において、参加事業者からいただいたご意見等の概要は以下のとおりです。

指定管理料について
●過去の収支が赤字であると民間は参入しづらい。 ●制度上、支出と収入の差額分が指定管理料となるが、収入が計画通りに進まないと、指定管理者にしわ寄せが行き、最終的には県民サービスの低下へとつながる。
指定管理期間について
●人件費が高騰する中で、スライド制度などの担保があればよいが、3年がギリギリで5年は長いという印象。 ●5年程度が妥当だと思うが、指定管理期間終了後、問題がなければ契約を更新する制度を採っている自治体もある。 ●有資格者の制約がある中で、5年で区切るとなると、新規採用や人材育成が難しくなるという側面もある。
募集要項について
●人の配置や指定管理料の内訳を記載してもらえると、費用削減等の採算を見積もりやすくなる。 ●例えば、調査研究などの学芸分野は行政が、特別展示などの教育普及分野は民間が行うなど、行政と民間の役割分担を明確にいただけるとありがたい。 ●施設特性や業務の専門性を考慮すると、非公募もしくは直営が妥当かとも考える。 ●仕様書等の制約が多く、管理運営において、柔軟な対応ができる余地があってもよいのではないか。
施設の活性化について
●施設全体をより大きいコンテンツで捉えて、イベント・体験・宿泊などで周辺地域と連携するとよいのではないか。 ●近隣の宿泊施設にメルマガを配信するなど、上手に情報発信して施設を知ってもらうことが大切だと思う。 ●従来の顧客層だけでなく、例えば若い家族層をターゲットにするなどして、新規顧客の興味を誘発する取組がよいのではないかと。 ●修繕費について、行政が予算を概算で見積もっていただき、年度末に精算する仕組みがあるとありがたい。 ●滋賀の魅力を上手に宣伝すれば、県内の教育普及だけでなく、県外からも訪れる施設になり得る。
その他
●指定管理者制度自体が、行政のコスト削減に比重がおかれており、民間の営利追求の考え方が希薄ではないかと。 ●修繕費の100万円区分について、経年劣化の瑕疵担保の点も検討して欲しい。 ●長年財団が管理されているため、ノウハウの集約等により、新規参入者にとっては障壁となるが、仕様に自由度が生まれるなど、変化があれば参入はしやすくなる。 ●現地までの交通手段について、休日だけでもコミュニティバスの本数が増えるとういのではないかと。